

## 実践② 伊佐市立山野小学校

### 1 はじめに

本校区は、伊佐市の中北部に位置し、西側には、南北に走る国道 268 号線が水俣に続いており、交通の便に恵まれている。東には、日本巨木百選に選ばれているエドヒガン桜がある十曾池公園、北西には、薩摩の三関と呼ばれた小川内関所跡などがあり、自然環境、文化、歴史的環境にも恵まれている。山野川や小川内川など数本の支流が合流し、国道 268 号と平行して流れる羽月川と十曾池から流れる十曾川に囲まれた田園地帯では、ブランドとして名高い伊佐米や金山ねぎが作られている。

本校は、「花と俳句と読書の学校」をキャッチフレーズに、開かれた学校として地域・家庭・学校の一層の連携を図っており、PTA、子ども会育成会など各種団体の活動も活発で学校教育に対する理解も深く、協力的である。

そのような中、子どもたちどうしの読み聞かせや読書くじの活動、PTAによる読み聞かせなどを通して子どもの読書に対する関心・意欲を高める活動が認められ、令和5年度に「子どもの読書活動推進優良校」として表彰していただいた。

### 2 読書活動の推進

#### (1) PTAとの連携

令和5年度までは毎月1回、平日の朝に、子どもたちを上・下学年に分けて、全保護者による読み聞かせを行っていたが、令和6年度からは保護者の負担軽減を考慮し、土曜授業実施日の朝、1回3名程度の保護者が全児童に対して読み聞かせを行っている。保護者一人一人が子どもたちに聞かせたい本を持ち寄って行うこともあれば、担当になった保護者どうしが事前に話し合って本や紙芝居を選定し、練習した上で当日に臨む場合もある。いずれの場合も、保護者のその本や子どもたちに向けた思いがしっかり伝わっていることが、読み聞かせ後の子どもたちの感想からも分かる。また、一緒に参加する職員たちにとっても、知らなかった本や作者に触れることになり、大変参考になっている。なお、実施に当たっては、本の重複を避けたり、参考にしたりするために、使用した本の記録をとっている。



市立図書館から借りたものを使い読み聞かせを行う様子

#### (2) 読書月間の取組

本校は、「あじさい月間」（6月）、「みのり月間」（10月）、「雪だるま月間」（2月）と名前をつけ、年3回の読書月間を設定している。それぞれに趣向を凝らして取組を行い、本を色々な視点から楽しめるようにしている。

##### ア 読書俳句

「はじめに」にも書いたように、本校は「花と俳句と読書の学校」をキャッチフレーズにしており、毎月子どもたちの作品の中から「今月の特選句」を選び、表彰している。読書月間のときは、これとは別に読書に関する



読書俳句の掲示

俳句（季語は入らないので、俳句とは言えないかもしれないが）を子どもたちから募集し、図書委員会の中で入賞作品を決め、紹介している。俳句に取り組んだ子どもには、プラスワンチケット（もう1冊貸し出し券）が贈られる。

#### イ 読書くじ引き

読書ビンゴを配布し、本を借りるときにスタンプを図書委員や職員に押しってもらう。ビンゴを1列達成させるごとに、くじ引きを回すことができる。くじ引きの中にはプラスワンチケットや子ども司書体験券などが入っている。

#### ウ 読み聞かせ

上学年・下学年に対象を分け、図書委員が昼休みに読み聞かせを行う。写真は、カーテンを閉め、図書室を少し暗くして雰囲気盛り上げ、「子育てゆうれい」の紙芝居を読み聞かせしてくれているところである。読み聞かせに参加した子どもにはプラスワンチケットが贈られる。



図書委員会による読み聞かせ

#### (3) 読み聞かせボランティアとの連携

地域の団体に協力してもらい、夏休みの出校日に読み聞かせを行っている。内容はお任せしているが、時期的なこともあり、平和の学習に関する本が選ばれることもある。



ボランティアによる読み聞かせ

#### (4) 学習中の読書

子どもたちの学習を支え、深めていくための場所としても図書館は利用される。ただ、本校では、子どもたちの教室と図書館のある校舎は別棟であり、子どもたちが必要としたとき、レスポンスがよくない状況にあった。そこで、令和4年に学習に関連のある本を通常の図書館から分離し、子どもたちが日常学習する教室近くに移動させた。本校のマスコットキャラクターから「池丸図書館」と名付けたこのコーナーは、国語の関連図書、社会や総合的な学習の時間の調べ学習などで頻繁に活用されている。



調べ学習・関連図書等のコーナー

### 3 おわりに

本校は、校内でも様々な工夫を凝らし、また、地域や保護者の協力ももらいながら読書好きな子どもを育てるために取り組んでいる。おかげで年間を通して、多くの子どもたちはたくさん本を読んでいる。しかし、選ぶ本の内容に偏りがあったり、まだ本とふれあう機会の少なかったりする子どももいる。そのような子どもも含め、全員が「本の世界を楽しむ」ことができるように、今後も学校・家庭・地域が一体となって取り組んでいきたい。



調べ学習・関連図書等のコーナー